

**TO THE EDITOR:**

私たちは、本誌第27巻第3号でLETTER TO THE EDITORとそれに対するreplyを掲載しました。香川らは、type strainとされた菌株のゲノムデータを参照し、average nucleotide identity (ANI)により、供試菌株を*E. xiangfangensis*と同定しました。しかし、*E. hormaechei* DSM14563のゲノムデータを参照してANIを再実施すると99.04%であり、*E. hormaechei*と同定されました。Enterobacteriaceaeは、用手法と分子生物学的手法間で同定結果が異なります。分子生物学的手法により菌種同定する際は、参照配列がtype strainであっても、ゲノムデータに紐付されている菌種名の同定法の確認が必要です。分子生物学的手法で同定された菌株のデータを使用しなければ誤同定に繋がる可能性が認識されました。

香川成人<sup>1)</sup>、松村康史<sup>2)</sup>、青木弘太郎<sup>3)</sup>、石井良和<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>独立行政法人国立病院機構東京医療センター臨床検査科、<sup>2)</sup>京都大学大学院医学研究科臨床病態検査学、

<sup>3)</sup>東邦大学医学部微生物・感染症学講座